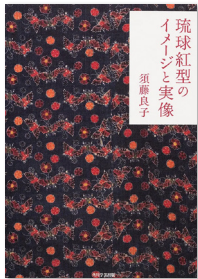


琉球紅型のイメージと実像



K/75/SU14/

須藤良子

角川学芸出版 2014年

琉球舞踊の衣装としての鮮やかな紅型のイメージは、近代に研究者達によって「創られた」イメージではないか？これが、本書の説です。戦後、文献などの証拠もなく、「紅型」イメージを形成したこれまでの説に、疑問を持たなかった事にはっとさせられました。

きものとジャポニスム 西洋の眼が見た日本の美意識



/383.15/F71/

深井晃子

平凡社 2017年

ジャポニスムというと、西洋の人々の浮世絵への熱心な興味が知られていますが、本書では、同時期に西洋社会に「発見」され、「受容」された、「きもの」が「kimono」へと変化していく様子が示されます。西洋と日本という異文化の出会いと融合のストーリー。

ヨーロッパに眠る「きもの」 ジャポニスムからみた在欧美術館調査報告



/753/Y84/

深井晃子・長崎巖・周防珠実・古川咲
東京美術 2017年

ジャポニスム期にフランス、イギリス、イタリア、オーストリア、ポーランド、ドイツの博物館に所蔵された着物の調査報告書。資料調査に加えて、蒐集家、美術商の調査を行い、コレクションの形成過程も研究されています。在欧沖縄染織品もこの本を参考に調査中。

沖縄染織王国へ



K/75/Y82/

與那嶺一子

新潮社 2009年

元沖縄県立博物館・美術館の学芸員による、沖縄染織品の解説書。この手の本はいくつかありますが、次代を拓く注目の染織家たちという章で、現代の染織家達が紹介されています。いわゆる着物や帯以外の、沖縄染織の進展も知っていただけると嬉しいです。

すぐわかる沖縄の美術



JK/70/MI73/

宮城篤正（監修）

東京美術 2007年

沖縄の漆芸、染物、織物、焼物、絵画・デザイン、建築・彫刻・民具の歴史が総合的に学べる教科書的な本。実際に「沖縄美術工芸史」という授業で教科書として使っています。芸大生以外でも、沖縄の美術や工芸に興味のある方なら読んで損はないと思います。

つながる沖縄近現代史 沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム



K/201/Ts75/

前田勇樹 古波藏契 秋山道宏（編）

ボーダーインク 2021年

沖縄近現代史の入門書として、2021年にボーダーインクから出版され、2025年増補版が刊行。私は2010年代に、近代の沖縄織物の研究をしていました。その頃も今でも、琉球王国時代の染織研究が王道なので、近代史の入門書があったらと思っていました。祝ベストセラー。

那覇女性史 近代編 なは・女のあしあと



K/367/N27/

那覇市総務部女性室
那覇女性史編集委員会

ドメス出版 1998年

沖縄の女性と家庭、労働、移民、教育、風俗改良、そして戦争への過程を31名の筆者でつづる。読むべきトピックはたくさんありますが、特に、女学生の制服の変遷や風俗改良などを通して、沖縄の女性がどんな服装へ移り変わっていったのか知る事が出来ます。

坂本万七遺作写真集 沖縄・昭和10年代



JK/299/SA32/

坂本万七

新星図書出版 1982年

写真家坂本万七は、民藝の人々と昭和14、16年に沖縄を訪れ、沖縄の風景を写し取りました。琉装の女性や洋服を着た子供達、機織りや紅型職人の作業風景がモノクロで写し出されています。沖縄戦により失われた沖縄の庶民の暮らしを知る事の出来る写真集。